

ふくしま地球温暖化対策推進本部会議 議事録

1 開催日時

令和4年5月13日（金） 16：20～16：35

2 議事内容

○鈴木副知事

ただ今から、「ふくしま地球温暖化対策推進本部会議」を開催いたします。
早速、議題「福島県2050年カーボンニュートラルロードマップ」について、生活環境部長。

○生活環境部長

資料1「福島県2050年カーボンニュートラルロードマップについて」をご覧ください。

本ロードマップは、2050年度までにカーボンニュートラルを実現するため、誰がどのような対策をどのように実施する必要があるのか、将来予測モデルを利用し、定量的に検討した結果となります。

各部門別の排出量削減目標値ですが、「産業」、「運輸」、「民生業務」、「家庭」、「廃棄物・その他」の5つの部門ごとに、2030、2040、2050年度それぞれの削減目標値と削減率、目標達成のため必要と考えられる主な取組について記載しております。

削減目標値につきましては、再生可能エネルギー導入による削減量を見込んでおり、削減率等は、全て対2013年度比の数字となります。

まず、産業部門ですが、照明のLED化を省エネ機器の更なる導入など、2030年度は36%減の362万3千トン、2050年度は89%減の62万4千トンを目指しました。

次に、運輸部門は、EVなど次世代自動車の導入促進等により、2030年度には36%減の269万3千トン、2050年度には96%減、16万4千トンまで減少させなければなりません。

次に、オフィスなどの民生業務部門では、省エネの徹底等によりまして、2030年度に64%減の123万1千トン、2050年度には99%減の2万1千トンまで削減する高い目標値となっています

家庭部門では、2030年度で63%減の129万3千トンまで減少させなければならず、また、廃棄物・その他部門も、2030年度は47%減の100万1千トンを目指して設定しています。

生活環境部といたしましては、今年度、民生家庭部門を中心に、電気自動車やZEH、いわゆるネット・ゼロ・エネルギー住宅の普及事業を新設

し、カーボンニュートラルにつながる行動を後押しする取組を進めておりますが、省エネの徹底やゴミ減量化等の呼びかけなど、引き続き、身近なことから、温室効果ガス削減量排出による県民理解の醸成等に取り組んでまいります。

今後、各部門において、様々な実践を重ねていただくことで、2030年度には50%減、2040年度には75%減、最終的に2050年度には、県全体として温室効果ガス排出量を森林吸収量と同じ130万トンまで削減し、カーボンニュートラルの実現を目指してまいります。

なお、本日「ロードマップ」が決定されました後は、庁内におきまして、各部門別に今後必要となる取組の検討を更に進め、排出量削減に向けた具体策を反映する形で、年度末までに地球温暖化対策推進計画を改定する予定です。

これまでの改定の経緯や今後の予定の詳細につきましては、参考資料のとおりとなっております。説明は以上です。

○鈴木副知事

ただいまの説明に関して、企画調整部。

○企画調整部政策監

企画調整部といたしましては、「再生可能エネルギー推進ビジョン2021」に基づき、引き続き、再生可能エネルギーの導入拡大、水素エネルギーの普及、更には、エネルギーの地産地消や自家消費の推進などに取り組む、エネルギー分野における地球温暖化対策を各部局と連携して、推進してまいります。

○鈴木副知事

商工労働部。

○商工労働部長

商工労働部といたしましては、研究開発、事業化、販路開拓等を一体的に支援することにより再エネ・水素関連産業の育成と集積に努めるとともに企業の技術力の向上や、産業人材の育成などを通じて県内産業活動における省エネルギー対策や再生可能エネルギー導入などの取組機運の醸成を図り、2050年カーボンニュートラルを目指してまいります。以上です。

○鈴木副知事

農林水産部。

○農林水産部長

農林水産部といたしましては、吸収源対策につきましては、引き続き、間伐を始めとする森林整備や森林環境の保全、県民参加による森林づくりなどを推進してまいります。再生可能エネルギーの活用等につきましては、一般家庭や公共施設等における熱利用や発電等で、木質バイオマスの利用を促進するほか、メタン排出の抑制など環境に配慮した栽培体系への転換や施設園芸における省エネ設備の導入などを支援してまいります。以上です。

○鈴木副知事

土木部。

○土木部技監

土木部といたしましては、県土木・建築総合計画の目標の一つに「環境・再生可能エネルギー」を掲げ、様々な取組を進めることとしており、県有建築物のZEB(ゼブ)化、いわゆるネット・ゼロ・エネルギーの導入を進めエネルギー消費量を削減するとともに、市町村・民間の建築物における木造化・木質化の普及を図り、二酸化炭素の排出も削減してまいります。また、道路・トンネル照明のLED化にも取り組んでおります。なお、今年度からは、小名浜港のカーボンニュートラルポートの形成に向け、アンモニアなどの次世代エネルギー等、多様な貨物需要に対応できるよう港湾機能の強化に取り組んでまいります。以上です。

○鈴木副知事

その他、何かありますか。よろしいですか。

それではなければ、ロードマップについては原案のとおり決定することといたします。

知事からお願いいたします。

○内堀知事

本日「カーボンニュートラルロードマップ」を示したことで、各部門の削減目標値が「見える化」されました。今後、どの程度の対策を講じる必要があるのか、中期、長期の道筋を明らかにすることができました。

2050年度のカーボンニュートラル実現に向け、重要なキーワードとなるのが「連携」です。

地球温暖化対策は県民総ぐるみ、オール福島で取り組むことが何より大切です。県民はもとより、市町村や事業所、学校、関係団体とも緊密に「連携」し、丁寧に意見を伺いながら、一丸となって、取組を着実に進めてく

ださい。

また、県庁内においても、改めて、地球温暖化対策が横断的な政策課題であると再認識することが必要です。

これまで以上に各部局がしっかりと「連携」して、チーム力を高め、様々な取組を加速するとともに、削減目標値を最終的に達成するため、新たに必要となる具体的な施策についても、速やかに検討を開始してください。

○鈴木副知事

以上で、「ふくしま地球温暖化対策推進本部会議」を終了します。